

# 「翻刻」青果日記（昭和三年・昭和五年）——眞山青果文庫調査余録（四）——

青木稔弥・内田宗一・高野純子・寺田詩麻

\*キーワード

眞山青果文庫・青果旧蔵書・青果日記・星槎ラボラトリー・自筆日記

はじめに

前々稿「翻刻」青果日記（昭和三年・昭和四年）——眞山青果文庫調査余録（二）——（『調査研究報告』42号）、前稿「翻刻」青果日記（昭和五年）——眞山青果文庫調査余録（三）——（『調査研究報告』43号）に引き続き、眞山青果の日記を翻刻する。本稿で対象とするのは、昭和三年と昭和五年の、全編が青果の自筆による日記3点である。

星槎ラボラトリー・眞山青果文庫には青果の日記が多数所蔵されるが、その多くは他筆によるもの、あるいは自筆と他筆とが混在したものである。前稿でも述べたように、青果が自筆の日記に自ら加筆・修正を施したのち、それを他筆で浄書するという流れが存していたことが窺われる。例えば、本稿において翻刻を行った「入院日記」「函架番号081」の二月十日の条の裏ページに記された「用件覚」には、「和田君、日記浄書」

との記載が見られ、青果の助手であつた和田勝一が日記の浄書にも従事していたことが確認できる。他筆による浄書の完了後、青果による自筆日記はすべてが引き続き保管されていたのか、あるいは用を終えたとして処分される場合もあつたのか、そのあたりの事情は判然としないが、現在までの星槎ラボラトリー・眞山青果文庫の調査においては、まとまつた形の資料として残されている、全体が青果の自筆による日記も数点確認されている。本稿では、それらのうちから年時の早い3点を取り上げる。

以下、本稿で対象とする資料3点の概要を記す。資料名はいずれも作業上の便宜のためにつけた仮称である。配列は日記の年次に従つた。

## 1 「昭和戊辰日記」〔函架番号081〕

昭和三年五月一日から六月二十九日までの期間の青果自筆日記である。

写本、1冊。247×170cm。縹色布目表紙。表紙及び本文用紙の上それぞれに2穴をあけ、紙縫を通して裏表紙側で結ぶ。原稿用紙（柱に「艾年書屋」と印刷）を袋綴じにする。墨および黒インクで記され、原稿用紙の上部余白に頭書（朱墨、墨、黒インク）を書き入れている箇所がある。

外題…「昭和戊辰日記 第三 五月一日」（打ち付け書き、墨書）  
内題…なし

紙数…36丁（墨付き25丁、末尾11丁は白紙）  
短冊状の白紙の和紙2点を挟み込む。

なお、外題に「第三」とあり、この前後の期間の自筆日記が別に存在していたことが推察されるが、これまでの調査では見出せていない。

主な内容は、著述活動や読書、訪問者、贈答品等の記録、六月十四日から二十一日にかけての信州旅行の記録などである。

星槎ラボラトリ・眞山青果文庫には、「ふる日記 上・中・下」「函架番号081」と題する他筆によって浄書された日記が蔵されるが、そのうちの「ふる日記 中」には「昭和戊辰日記」と重なる内容が含まれている。

## 2 「旅行日記」「函架番号081」

昭和三年七月三日から七月九日まで、および八月十六日から八月二十日までの期間の青果自筆日記である。

写本、1冊。145×225cm。赤茶色表紙に紺色の綴じ紐が付いた、市販のスケッチブックに記載される。日記のほか、研究メモ、作品

構想メモ、住所録等の記載も含む。日記部分は鉛筆で記される。

外題、内題、背題…なし

紙数…56ページ（遊紙を含む）

構想メモ3点を挟み込む。

後ろ見返しにラベル（「BUMPUDO KANDA TOKYO」）貼付。

中ほどに未記入部分（計12ページ）を挟んで、表紙側・裏表紙側の前後両側からそれぞれ記事が書き進められている。書字方向はいずれも右縦書きであるため、前半部と後半部では天地が逆転した形となっている。年時は資料中に明記されていないものの、七月五日の記事に「勝浦島に坂本竜馬銅像を望みつ」とある桂浜（旧名・勝浦浜）の坂本竜馬像は、昭和三年五月に除幕式が行われたものであること、七月三日の記事に「宿に帰って小憩、南座にゆく。初めて評判の白野弁十郎を見る」とある「白野弁十郎」は、新国劇によって京都南座で昭和三年六月三十日から上演されていた記録が確認できることなどから、昭和三年の日記であると判断される。

主な内容は、七月三日から九日にかけて京都、神戸、高知、大阪をめくった旅行の記録、および八月十六日から十八日にかけての湯河原、熱海旅行の記録などである。記事中には、旅先で食したもののスケッチや見学先の略地図・見取り図など、青果の自筆による図が存する。

「ふる日記 中」「函架番号081」には、「旅行日記」の七月三日の記事の一部と重なる記載が見られる。

### 3 「入院日記」「函架番号081」

昭和五年二月九日から三月二十五日までの期間の青果自筆日記である（ただし、三月二十五日の記事は線で抹消されている）。前稿にて翻刻を行った「昭和四年・五年日記」「函架番号081」において他筆で記されていた、同期間の記事のもとなった資料であると推定される。

写本、1冊。11.2×18.5cm。薄茶色布地表紙に茶色の綴じ紐が付いた、市販のスケッチブックに記載される。日記のほか、住所録、見舞品の一覧等の記載も含む。鉛筆で記される。鉛筆、赤インクによる加筆・修正が施されている。

外題…「昭和<sup>(4)</sup>年日記（上巻）」（打ち付け書き、朱墨）

内題、背題…なし

紙数…64ページ（遊紙を含む）

挟み込み資料なし。

表紙外題の左側に、「（美保子浄書スベシ）」と朱墨で記されている。

日記部分については、日記本文はスケッチブック見開きの左側の面（表ページ）に記され、見開きの右側の面（裏ページ）には、行うべき事柄など各種の備忘が記されている。なお、備忘のうち、抹消線が施されているものは、対応済みなどで情報が不要となったものと推察される。本稿においては、これら裏ページに記載された備忘も、入院中の青果の動静を知ることのできる資料として有益であると判断し、翻刻の対象とすることとした。

主な内容は、東京帝大病院・稲田内科入院時の記録であり、「昭和四年・

五年日記」「函架番号081」の内容と重なる。ただし、見開きの右側の面（裏ページ）に記される備忘の類は、「昭和四年・五年日記」には記載されていない。鉛筆、赤インクによる加筆・修正は、いずれの箇所も数文字程度にとどまり、内容面に関わるような大幅な変更は加えられていない。加筆・修正の具体的なありようを見ると、文言の変更や追加、漢字表記が仮名表記かの表記の変更のほか、行草体で記した漢字を楷書体で書き直している箇所が認められ、これは他者による浄書の際の便を考慮したものかと推察される。加筆・修正箇所を「昭和四年・五年日記」「函架番号081」の該当箇所と対照させてみると、加筆・修正を反映させている箇所と反映させていない箇所とが混在していることが確認される。

なお、星槎ラボラトリー・眞山青果文庫に蔵される入院中の青果の動向の記録としては、日記のほかに「入院中雑記帳」「函架番号034」も存する（資料名は仮称）。「入院中雑記帳」には、「入院日記」と同じ装丁で、それよりも一回り大きいサイズの市販のスケッチブックが使用されている。主な内容は、入院中の血圧・体温・脈拍の記録、短歌、研究メモ、来訪者の記録、読書の記録などである。記載されている血圧の数値や来訪者名、書名などに「昭和四年・五年日記」「入院日記」と共通する情報が認められ、これが昭和五年の入院時の記録であることが確認される。

また、「入院日記」中には、二月二十五日の記事に「永代蔵のことなど打合す」とあるなど、「日本永代蔵」に関する記載が複数箇所に見え、同様に「昭和四年・五年日記」においても、昭和五年一月十八日の記事に「永代蔵精査 日に一章」との記載が見られるなど、

「日本永代蔵」に関わる記事が随所に存在しており、青果が昭和五年の入院期間中に「日本永代蔵」についての調査や考察の作業に従事していたことが看取される。星槎ラボラトリー・眞山青果文庫には、表紙に「永代蔵入院雑記」と朱書したノートが所蔵されている（「函架番号053」）。内容は、「日本永代蔵」の注釈や登場人物に関する情報の整理などであり、入院中の日記の記述が裏づけられる。

#### 〔注〕

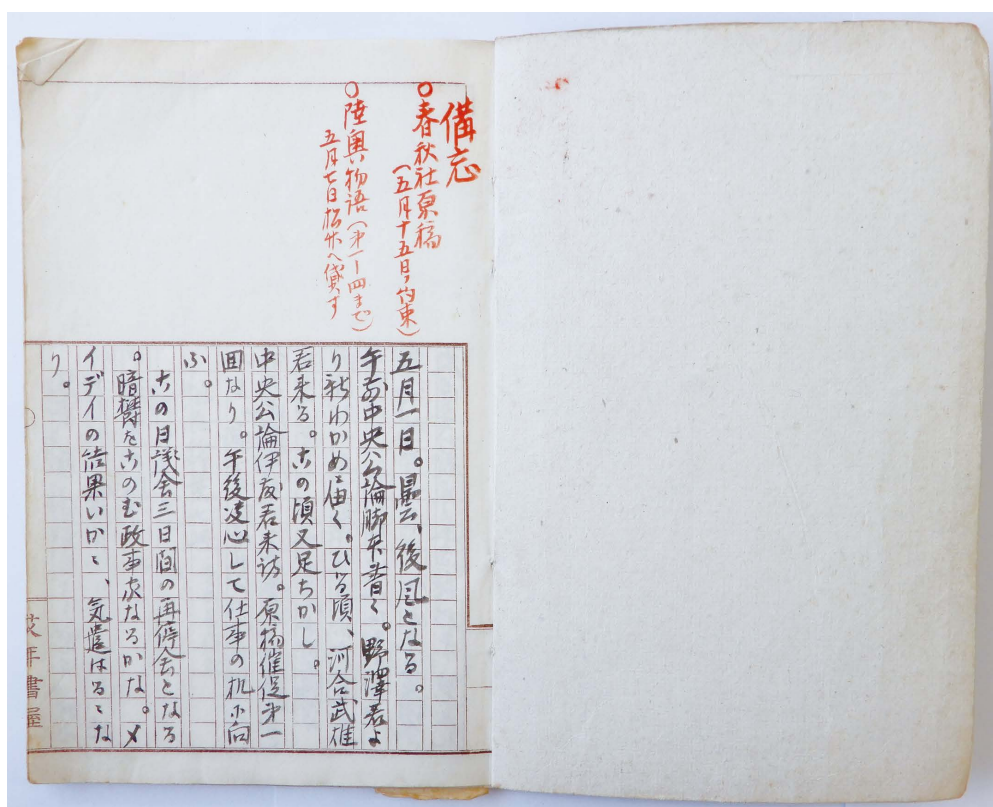
- (1) 立命館大学アート・リサーチセンター「日本芸能・演劇総合上演年表データベース」(<https://www.dh-jac.net/db/nenpyo/search.php> 最終アクセス：令和5年10月11日)による。

#### 凡例

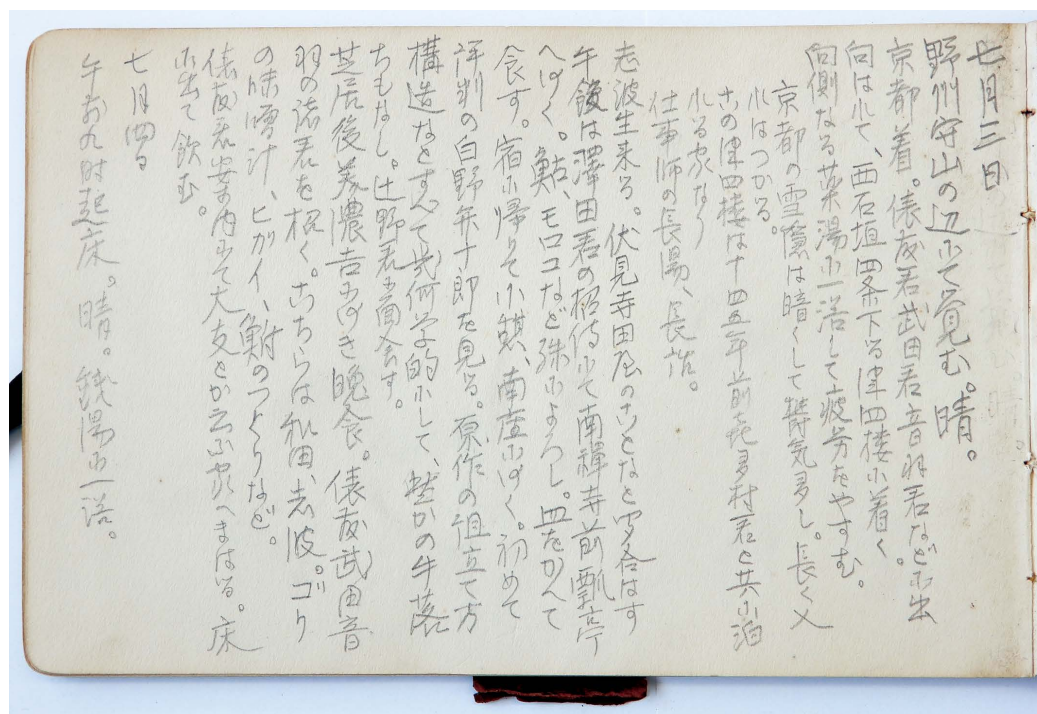
- ・漢字は、原則として通行の字体に改めた。
- ・変体仮名や合字などは、通行の仮名字体に改めた。
- ・仮名遣いは、原則として底本の表記に従う。
- ・明らかに濁点を必要とする場合は補った。
- ・明らかな脱字は、適切な語句を本文行で「」の中に補った。
- ・見出しの日付が記されていない場合は、「」の中に補った。
- ・明らかな誤記は、ルビ行に（ママ）と傍記した。ただし、日付の誤りは訂正した。
- ・底本の振り仮名は、そのまま翻刻した。
- ・字下げや句読点は底本ママとし、翻刻者が補わないこととする。
- ・底本に加筆や修正が施されている場合は、それを反映した。
- ・判読不能の箇所は、□□で示した。
- ・日記以外の要素（研究メモ等）を日付の記載なく記している場合は、翻刻の対象外とした。同様の挟み物類も除外した。
- ・本稿巻末に人名索引を附した。

#### 〔附記〕

本稿は、星槎グループ「眞山青果蔵書研究助成事業」による研究成果の一部である。また、画像の撮影ならびに掲載について、星槎ラボラトリーより御高配を賜った。記して感謝申し上げます。



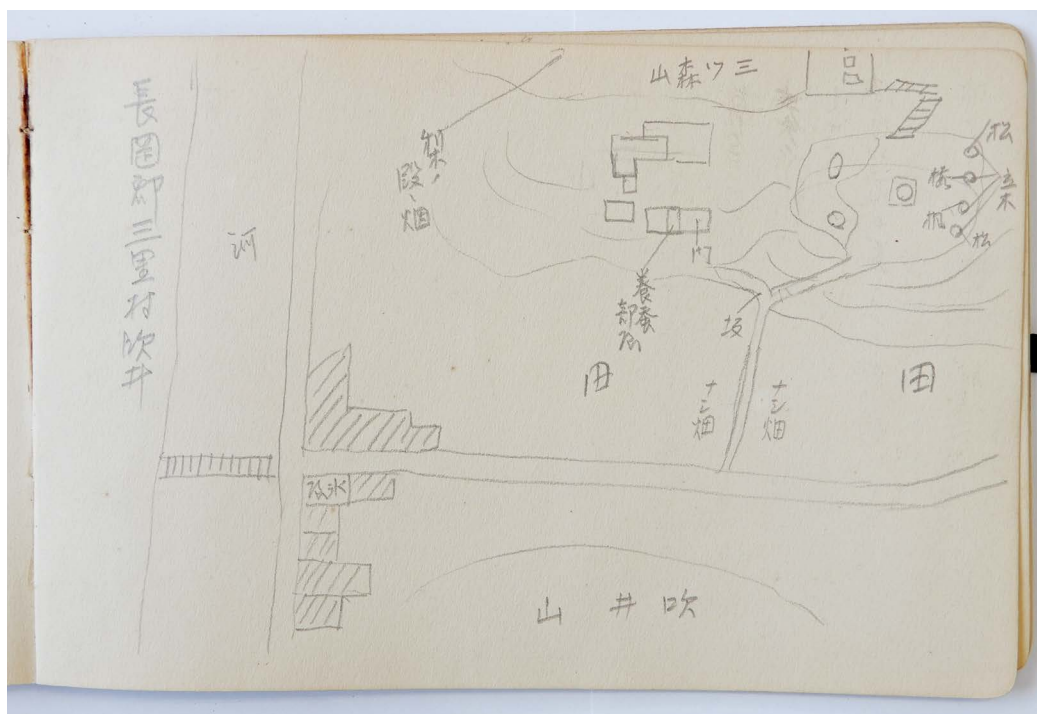
「昭和戊辰日記」本文(昭和3年5月1日)



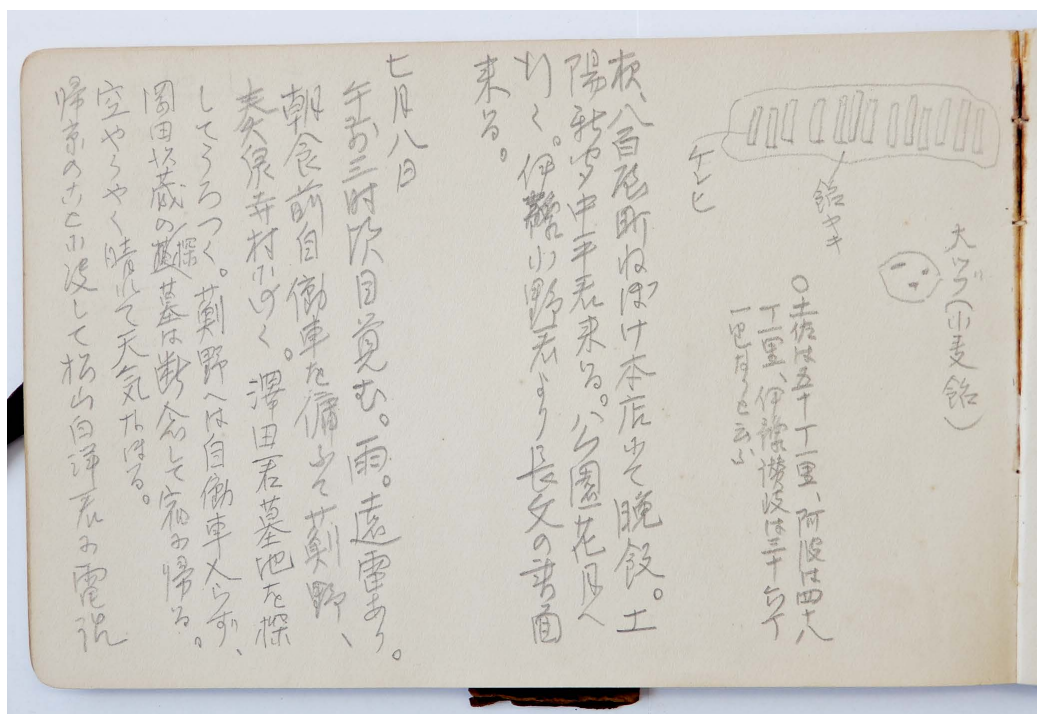
「旅行日記」本文(昭和3年7月3日、7月4日)



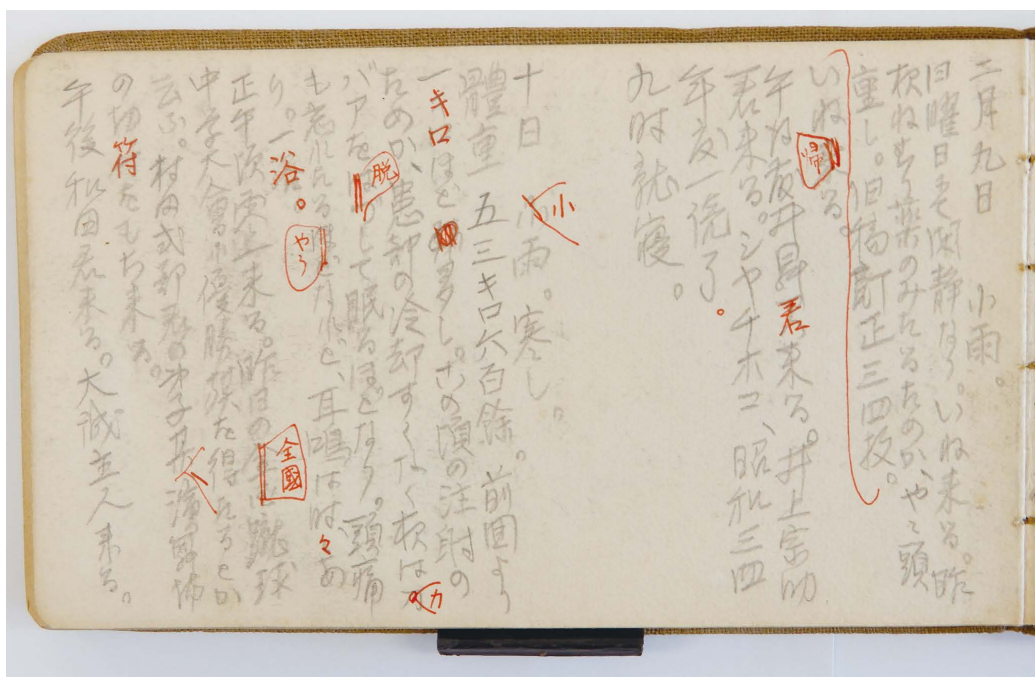




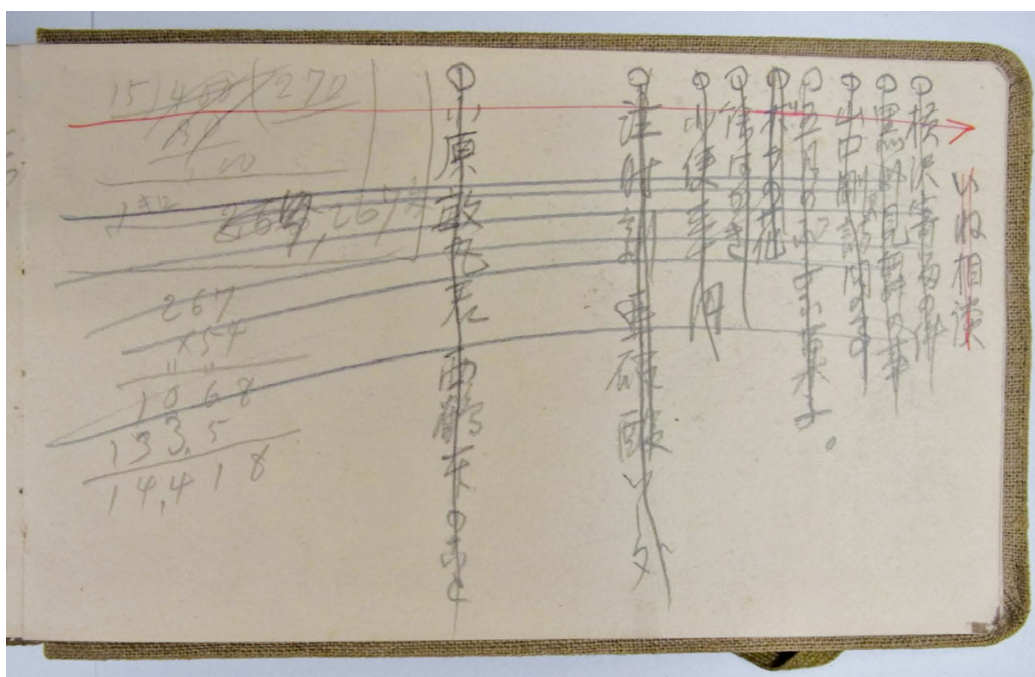
「旅行日記」本文（昭和3年7月7日）



「旅行日記」本文（昭和3年7月7日、7月8日）

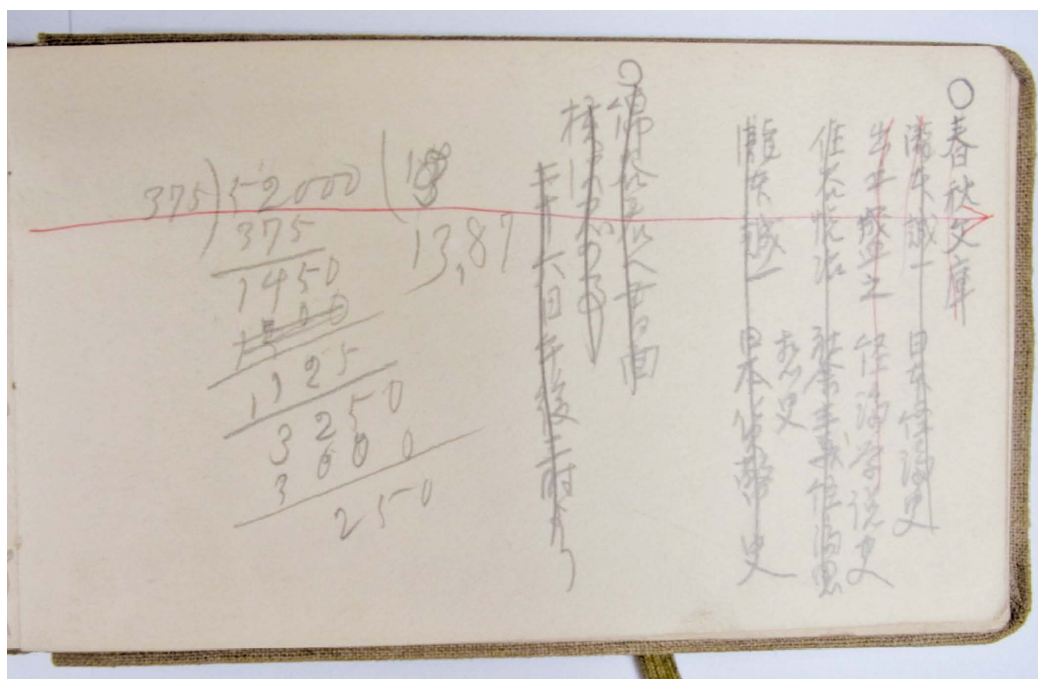


「入院日記」本文 (昭和5年2月9日、2月10日)



「入院日記」本文 (昭和5年2月13日)





「入院日記」本文（昭和5年2月22日）

翻刻

1 「昭和戊辰日記」

五月一日。曇、後風となる。

午前中央公論脚本書く。野沢君より新わかれ届く。ひる頃、河合武雄君来る。この頃又足ちかし。

中央公論伊藤君来訪。原稿催促第一回なり。午後決心して仕事の机に向ふ。

この日議会三日間の再停会となる。暗鬱をこのむ政事家なるかな。メイデイの結果いかゞ、気遣はるゝなり。

読書。夜、俵藤君より電話。新国劇六月は新橋演舞場の由。狂言、桃中軒雲右衛門。

〔頭書〕

備忘

○春秋社原稿

（五月十五日ノ約束）

○陸奥物語（第一―四まで）

五月七日松竹へ貸す

二日 雨。午後はれる。

午前入墨者をすこし書く。湯に行きたる留守に、孚水画房（本郷区湯島同朋町一五）元禄版画集第二を置いてゆく。永見君の紹介なるよし。

午後俵藤君来訪。佐藤充君来訪。木内興行部より上演料持参。態度礼な

きゆゑ受取らず。夜になりて又福井野紅君と二人づれにて来りしも面会せず。

三日 曇、寒し。清水君より笥送らる。読書。正午頃、伊藤茂雄君。

地名辞書七冊 吉田東伍氏

鄙事重宝記五

難波丸綱目壺

艶道通鑑二

肥後先哲遺蹟一

水戸学

黒甜鎖語一

江戸の自治制

血史 熊本敬神党

俗語大字典

日本歳時記

加能紀要

年中行事

高野長英遺墨

以上 楠林より求む

午後、中山豊三君来訪。プラトン社休業について挨拶なり。事情を聞くに金主野村銀行の悪辣にくむべし。  
遊佐喜一來る。

四日 今日気分重く机に向ふ気なし。晴。藤井六輔君来る。去年来の礼心とて大箱に鮮魚一荷を送らる。市村座初日とて急ぎ帰る

肅堂先生に為替。今村猛雄氏遺族に吊状、香典おくる。

金魚を買つて泉水にはなつ。

この日瀬戸佐太郎君義弟石井信造君来る。

五日 夙起。晴。午前仕事の机に向ふ。気す、まずして中止。

今日零一の誕生日を祝ふ。節句なれば十二日を取越すなり。ちまき、柏餅、おめでたうを買はせる。強飯。

夜、小児等とあそぶ。

この日議会解散にいたらず。南方支那軍邦人虐殺について、や、詳報あり。

六日。毎日徒に快晴。午前課業の机に坐りしが書けず。西鶴など読む。

今日和田君の妻子郷里より帰る由。

古事類苑第二十四回

駅通史稿

近松全集 朝日新聞第十一冊

アマリ書ケヌ苦シサニ、伊藤君ニ使シテソ、ノカシ出シ、神楽坂ニテ飲ム。頭ヲ変調ニスルタメナリ。新福井トイフ家ナリ。新喜楽ニキタル料理人ナリト聞キタレド、評判ホドニハナシ

七日。晏起、午前十一時。快晴。和田君ノ細君、幼児ヲツレ来ル。搔モチ、味噌、ナラ漬ナド土産数種。

白粥ニ食塩。

和田君ヲ勞シテ週間朝日ニ原稿ノ交渉ヲナス。朝日ハ額田君ノ脚本五回連載ノ約アリト云フ。和田君ノ機転ニテサンデー毎日ヘ話シセリトイフ

〔頭書〕

脚本陸奥物語

四冊松竹ヘ貸ス

八日。曇、後小雨。中央公論の脚本筆進まず。朝決心して島中雄作君自宅訪問。事情をはなし来月号一幕のことにきめる。帰途伊藤茂雄君訪問、一家不在。

午後、雨ふり出す。松竹事務所に社長訪問。六月猿之助本郷座の相談。帰途大学に吉野君訪問。寛談して帰る。

九日微雨。午後はれる。

机に坐る。どうしても書けず。鈴木氏亨君より牡丹二鉢送らる。

江戸名所図会 第二卷

群書類従 正篇第一回配本

松竹座当月陸奥物語上演のよし。

十日。中央公論のため書く。

鈴木君の修学旅行費三十二円納める。

(十一日の誤記)

十一日。中央公論に書く。興なし。かくばかり筆進まざるも又稀らし。

十二日。中央公論の脚本、無理ながら書終る。午後、松竹に大谷氏訪問して、六月猿之助芝居のこと謝絶す。

この日雨。午後は颱風来る旨新聞に予報ありしが、四時頃より晴る。

日本儒林叢書 第二

日本随筆大成 第十二

考古学講坐 第二

日本随筆全集

続随筆文学全集 第二

楠林より今日買入れし分

西鶴本上下、水谷不倒

摂津 太田亮

武蔵 〃

河内 〃

近江 〃

京都年中行事 江馬修

以上

夜、移転一週年<sup>(マ)</sup>の記念に零一の誕生日なればとて、一同へ更科のそばを

買ふ。四郎君来る。

十三日 曇、小雨。

久しぶりに理髪。帰途雨にふられて蝙蝠傘を買ふ。

終日読書。千駄ヶ谷ふぢの来る。

出羽風土略記 上巻

夜、小児等とあそぶ。零一は試験のため勉強なり

十四日 晴。天候回復シテヤウヤクアツシ。午前ハ西鶴注釈ニ従事ス。

一代女、第三巻ナリ。

和田君ヲ春秋書院ニ使シテ、約束原稿ノ延期ヲ申込ム。四郎君ニ婚禮ノ祝義ヲ出ス。(五十円)又黒川一君ノ結婚イハヒニ同額ノ切手ヲ求メシム。

鮮魚二尾、江戸源ニ買入レタノム

江戸時代の角力 三木愛花君

夜、翁君鈴木氏亨君等ト共ニ大酔ス。水守君来る。失態アリシナラン

今日セルヲ着ル

十五日 晴 曇起

終日西鶴ヲ読ム。時々意外ノ発見アルタメ、気大ニフルフ。

零一ヲ黒川君ニ祝ヒニヤル

日本芸林叢書 嬉遊笑覧下

日本名著全集 八犬伝下

十六日 曇 一代男ヲ読ム

三田村鳶魚氏ヨリ使价アリ、薩摩産塩辛一壺、夏羽織地一反ヲ送ラル。昼飯後一睡。

十七日。曇。暁四時ゴロ覚ム。

米沢ノ伯母マタ出京。東ノ婚禮買物ニ来ルトイフ。セツ子今日遠足、植  
物園。

中津川清水君ヨリ八丁味噌。

夜、小児等トハナス。今夜四郎生ノ結婚式ナリ。母代理ス。

十八日。曇。少シ寒シ。

終日読書。近日モノ貰ヒ日ニ三人五人来ル。ウルサシ。

日本随筆大成 第二期第一

日本封建時代の研究 本庄栄次郎

見世物研究 朝倉無声

十九日 ヤ、晴レタリ。

終日読書。越後塩沢鈴木氏ヨリ木芽一箱送ラル。鈴木氏ハ馬琴ノ親友牧  
之ノ孫ナリ

帝国文庫

今日零一ノ父兄会ナリ。

我が歴史観 平泉澄



(ママ) 江東逸話 勝田孫弥

近世史に於ける国学者の運動

二十一日 晴

午前一時半頃強震あり、それより眠らず。余震三四回。

零一、今朝京坂地方修学旅行に出発す。横浜より神戸まで汽船のよし。  
懶臥読書。

古事類苑一冊

日本経済大典二冊

万葉集新考一冊

未刊随筆百種 第十回

この夜、伊藤君松本君と飲む

二十二日 晴 晏起

終日読書。

二十三日 晴

終日読書。午後地図など検査す。

零一より通信あり。海上第一信なり。少し船に酔つたらしい。

小児等に小机など購ふ。

二十四日 曇 小雨

読書。伝通前にゆき理髪。伊藤専一といふ人来る。広津氏友人の由。

日本古典全集 三冊

「頭書」○越後塩沢へ礼状のこと

二十五日 晴 読書

稀書刊行会本 いなご。黄表紙等

午後黒川一君来る。神楽坂に誘ひ出さる。大に酔ふ。

二十六日 晴 晏起

今日西鶴の輪講会なり。電報にてことはり不参。午後鈴木氏亨君来る。  
山本有三君その他の発意にて五十年誕辰の賀会を余のためにひらかんと云ふなり。好意は謝すべきも晴がましきことは厭はし、且つそのため文壇に交りをつくるも煩さし。切に謝絶す。さらば有志者より紀念品を送らんと云ふ。それもことはる。

鈴木君と飲む。

二十七日 晴

終日読書。

夜、西鶴講義会開筵。日本永代蔵、伊藤茂雄、同元吉、和田君三人。

僅に卷一の二章を講じたるのみ。零一旅行中に旅費全部遺失したる由、葉書来る。先生より借りて帰るやう電報うつ。

二十八日 晴  
終日読書

二十九日 晴 朝零一帰る。

午前、中央公論の脚本を筋立てする。

浮世絵商孚水画房なる者来る。春画巻物を出す、叱る。

永見徳太郎君より五島スルメ、米沢の伯母より木の芽数種とゞく。  
とみを来る。

三十日 晴 読書

村田式部君来る。講談社記者来る。鈴木氏亨、畠中蓼波<sup>(マヤ)</sup>君来る。田舎にて江戸城総攻め上演したしと云ふ。許す。

家族一同歌舞伎座へ少年芝居見にゆく。

今日清水省三君と会見の約なりしが、宿所を忘れて出掛けることを得ず。  
夜、小児等大悦びにて芝居より帰る

三十一日 快晴 脚本考案

菊池寛傑作集

海舟全集 第四回

故実叢書

明治文化全集

六月一日 晴 午前脚本のことなど考ふ。現代の宮下君、伊藤茂雄君来訪。午後読書

伊藤欽二といふ人、会津西郷翁の詠草数首を贈り来り、書面あいまいなり。返送す。金少々添ゆる。

越後鈴木氏、永見君へ羊かん（紅屋）おくる。

六月二日 雨。午前脚本趣向。

午後も同じ。夜、小児等とすしを食す。

三日 晴。清水君よりワサビ漬とゞく。午後脚本書き初む。心持よく書けさうなるゆゑ、諸方に使を出して今日の西鶴講会を休業す。

やはり書けず。心身の衰弱をなげくのみ。

四日 微雨。朝伊藤君に使用して約束の来訪を延期してもらふ。脚本書けざるためなり。書けざるに書いて食はざるべからず。かゝる苦しき生活はなし。終生の覚悟せざる可らず。嗚呼。

五日 曇。中央公論脚本、午前少し書き午後少し書く。二十枚近くなる。遊佐生来る。

六日 晴 午前少し仕事す。一浴

日本随筆全集 第十七卷

日本文学聯講 第三

近古小説新纂 第一編<sup>(マ)</sup>

日本文学大系 滑稽本の部

芝居風俗 三田村鳶魚氏

日本図会全集 第三回

〔頭書〕○西鶴のおさん茂右衛門精読のこと（六月六日考ふ）

七日 晴 午前執筆

午後 銀坐伊東屋に万年筆もとめにゆく。鈴木君を訪ふ。

八日 晴。

午前は読書 午後脚本を書く

九日 晴

午前脚本を書く。午後書けず。

十日

同上

十一日

同上

十二日 晴

書いても書けなくとも、今日は延すべからず。南無阿弥陀仏を唱へて幕になしぬ。六十四枚。拙劣思ふだに苦し。午後気ばらしに新国劇に出掛ける。三幕ほど見る。

夜、江戸源。零一迎ひに来る。

十三日 曇

十四日

午後十時飯田町発車。

十五日

午前五時上諏訪に着く。清水省三君に出迎られて布半ホテルといふに入る。朝食微酔して正午頃まで眠る。午後湖畔を散歩し、四時頃より自働車にて下諏訪にゆく。神社に参詣して社頭松葉屋といふに入る。九時頃まで酒のみて布半に帰る。

○料理。角砂糖入珈琲一杯。次に小鉢、パインナップル、バナ。鯉の洗ひ。鯉の旨煮。鯉の焼物。鯉こく。ワカサギ、山葵醤油。鶏肉甘煮。鰻魚の白焼、ワサビ。

献立のあくどく田舎じみたるが面白けれど、洗ひに鯉の皮をそのまま、かけたるは蝦蟇の背そつくりなり。

○土地名産。氷餅。カリンの砂糖漬、梨子酒等

十六日 晴。午前十時五十分上諏訪発。午後一時頃浅間温泉に着く。富貴の湯。

謂ゆる日本アルプスを前面に土地高燥なれど、谿流なく、樹蔭なく、温泉場らしき情調なし。湯の量は豊富、宿の設備もや、整ふ。

夜十二時頃迄飲む。指方竜二君、土地の芸者に切りに木曾踊を教はる。

十七日 晴、部屋を三階の方に移す。余り物々しき坐敷飾りにて厭はしければなり。清水君午前十一時の汽車にて中津川へ帰る。ミホ子より書状。懶臥読書。

夜、大広間に保険会社員の宴会ありて賑かなり。

信州は今小唄流行の地と見ゆ。阿曇、伊奈、木曾、長野、曰く何、曰く何、謂ゆる現代の童謡作家の作歌多し。

豆腐。名物といふ。製法や、あらけれど、豆はよろし。冷奴より味噌汁によろし。

鮎。天竜の鮎など云ふて自慢すれど、われ等の食したるは氷漬九州ものなり。

あか魚。クキに似たる川魚。田楽焼。子ありて大なるはうまし。

山路よろし

そば。純粹ならず。

わらび、上高地の産なりと云ふ。茎肥えてよし。粘分もあり、歯ぎれもよし。

油揚げ、よろし。

十八日 晴 終日懶臥、散歩にも出でず。連夜の酒に疲労の気味なり。随筆雑著を読む。午後は好晴にて日本アルプスの全容を見る

夜は酒をひかへて蕎麦一もりを食して眠る

体量をはかる十三貫六百目

十九日 晴。暁ごろ目覚む。床中に新聞など読みて、宿の起き出るをまつ。

清水君より書状。藤村氏令息のゐる馬籠行の順路を報し来る。訪問の意ある故なり。

終日読書。留守宅より電報為替。

夜おわかれのため一酌。指方君の木曾オドリ完全たり 玉突場に下りてビールをのむ

浅間ダンゴ。餡のねり方田舎風にしてよろし

やまべ。生さかれり、食はず。

二十日。微雨、風つよし。

暁ごろ覚む。連日の酒に胃腸を損じたるもの、如し。清水君の命なればとて勘定書を出さぬのを無理に支払して、午前十一時半の汽車にて中津川に趣く。清水君途中福島駅まで出迎ひて款待いたらざるなく、寧ろ心苦しき程なり。駅につけば同君令閨、部下の社員など雨中に來り迎ふ。梅信亭に入る。閑寂にして雨を□くによき家なり。一浴して飲む。土地の芸妓数名来る。清水君の家に顔を出して、九時三十分中津川を出発、十一時四十五分の急行に名古屋にて乗換す。寝台なし。食堂に入りビー



ル二本を倒し、身をかゝめて眠る。  
名物。栗饅頭。榧あられ、その他。

廿一日。曇。裾野辺より覚む。午前八時六分東京駅着。帰宅。

一浴してゆるゝ、と旅疲れをやすむ。留守中変りたることもなし。

金沢桜井芳太郎君より、金沢叢話、銭屋五兵衛を送り来る。

夜小児等あいてに飲む

廿二日 雨。梅雨らしき日なり。

午前、現代のために旧稿一本杉を訂正す。ひる頃千葉の篠崎君来る。

故実叢書 儀式の部

帝国文庫 美少年録

ツンベルグ日本紀行

明治文化全集

松竹黒川君より来月大坂にて紅灯新話上演のこと申込来る。(小織河合両君) 雄弁記者来る。

二十三日 曇、蒸暑し。午前雑誌現代の脚本訂正。

午後、芦花先生夫人来訪。全集のこと、家計のことなど種々相談をうく。

芦花伝起稿のことなど話して慰む。話を聞きたるだけにては、賀川君など云ふ人々の心事を怪しまざるを得ず。土曜日なれば零一をつれて神楽坂に晩食す。この日指方君よりスルメ送らる

日本演劇の研究第二高野辰之  
未刊隨筆百種 第十五

二十四日 微雨 午前脚本訂正。

この日存外に仕事はかどる。

夜、吉野作造君と電話。母、歌舞伎座へゆく。

二十五日 朝驟雨。午後、晴れて暑し。仕事はかどる。序幕六十七枚現  
代へ送る。

午後河合武雄君来る。明日大坂へ出発のあいさつながら、脚本の依頼なり。それとなく謝絶。

夕方零一をつれ大曲へ植木など見にゆく。八時、これより食事せんとするところへ、某先生来訪。例によりて三四時間跪坐せざるべからず。悪しき事とは思ひたれど、留守をつかつて裏口より江戸源にのがる。帰りて聞けば三時間ほど、ゆつくり召上りて帰宅の由あり。

二十六日 雨。読書。

日本経済大典 二冊

言泉 第一、第二

万葉新考 第三

古事類苑 植物金石の部

未見の人細井肇氏より来書。

二十七日 雨 読書

午後矢野国太郎君来訪。粕谷徳富夫人の用件にて来られしなり。(ツル子さんの夫君なり) 中村吉蔵の事。

稀書刊行会本

思想家全集(第十八)

〔頭書〕○五十不<sub>レ</sub>造<sub>レ</sub>家。六十不<sub>レ</sub>製<sub>レ</sub>衣。縦饒得<sub>二</sub>受用<sub>一</sub>。能有<sub>二</sub>幾多<sub>一</sub>時<sub>一</sub>。宋人詩

二十八日 曇 終日懶臥

徳富夫人より速達郵便来る。後藤肅堂先生来訪のよし。

二十九日 雨 高野長英伝を読む。

マルクスエンゲルス全集 改造社

子規分類俳句全集第三

浪華叢書第十回

養生訓新刻(益軒)

好色一代男輪講 第八

(三田村氏恵贈)

方言採集手帖(著者東修君所贈)

翁久允君より神通川名産鱒のすし送らる。(富山市七軒町高田屋商店) 米の質軟か過ぎたれど、塩加減、たき加減ともによろし。好下物といふべし。

## 2 「旅行日記」

七月三日

野州守山の辺にて覚む。晴。

京都市。俵藤君武田君音羽君などに出向はれて、西石垣四条下る津四樓に着く。

向側なる薬湯に一浴して疲労をやすむ。

京都の雪隠は暗くして鬱気多し。長く入ればつかる。

この津四樓は十四五年前喜多村君と共に泊れる家なり

仕事師の長湯、長話。

志波生来る。伏見寺田屋のことなど聞合はす

午飯は沢田君の招待にて南禅寺前瓢亭へゆく。鮎、モロコなど殊によろし。皿をかへて食す。宿に帰りて小憩、南座にゆく。初めて評判の白野弁十郎を見る。原作の組立て方構造などすべて幾何学的にして、些かの手落ちもなし。辻野君に面会す。

芝居後美濃吉にゆき晩食。俵藤武田音羽の諸君を招く。こちらは和田、志波。ゴリの味噌汁、ヒガイ、鮎のつくりなど。

俵藤君案内にて大友とか云ふ家へまはる。床に出て飲む。

七月四日

午前九時起床。晴。銭湯に一浴。

昨夜の約束にて辻野君の来訪をうけたれど急に今日土佐に出発することにして市中巡礼をやめる。

午後一時頃、京坂電車にて四条をたつ

大坂にて坂神急行にのりかへて三時半神戸着。

#### 旅行安全デイ、火災防止デイ

海岸通三丁目サツマ屋に荷物を托して楠公社一拝。相生町三ッ輪にて謂ゆる神戸牛のスキ焼。サツマ屋にて休憩

午後七時半の浦戸丸に乗る。海穏かに夜静かなり。淡路の火光を望みつ、甲板にビールをのむ。十時頃<sup>(ママ)</sup>の灯台をまはりてベットに入る。

七月五日

五時目ざむ。快晴。甲板に出れば残月そらにあり、藍色の海をはしる。

勝浦島に坂本竜馬銅像を望みつ、船は湾内へ入る。

銅像は松林に掩はれて引立たず。

七時半大栈橋着。本町筋城西館に入る。ビール二本、一睡す。

土地に案内者なきため和田君に高知新聞を訪問せしめたるに、<sup>(ママ)</sup>遇然にも

松山白洋君の訪問をうく。土佐史談会副会長なりといふ。午後横臥疲労をやすむ

午後土陽新聞中平君訪問

夕刻より松山君、中島君（高知新聞）を得月楼に招待して大酔す

小夏。夏蜜柑の一種。酸味やはらかにして香高く、初夏にふさはし。

土佐は暖国なり。稲の穂出づ。本月々末収<sup>(ママ)</sup>獲して二度作をなすと云ふ。全国にて日向の一部と高知平野のみなりと云ふ。

品質あしきと肥料及び労力を算すればさまで利益ならずとも云ふ

九万疋。乾したるを見る。

七月六日

午前八時起床。快晴。

朝食後、野中兼山先生の墓に詣らんとして家を出づ。自働車通せず、中途より引返して天神橋にて下社<sup>(ママ)</sup>。潮江の天満宮に参詣し、天神橋を起点として市中を歩む。中島町高野寺（板垣氏旧宅）の前を通り、公設市場（南会所あと、即ち瑞山致死の処）を過ぎ、帯屋町筋吉田東洋の遭難地点を極め、それより追手筋に出て藤並神社前より旧城地内に入る。

天守に上る。暑し。

帰途商品陳列所を一見して帰る。

昼飯をすしにて済ます。

〔図（すし）〕

午後。烈日の下を新世界一見。材木町を過ぎ瑞山先生の旧宅辺を探る。疲れて帰りビールに酔ふ。

七月七日 曇、後驟雨。

暁起して土佐史談など読む。九時頃白洋君来訪。自働車を備ふて吸江寺に詣る。

瑞山先生墓に詣して、先生の故宅を見る。坂本恵喜氏現住。坂本節君など来りて談話を聞く。

〔図（武市瑞山旧宅見取り図）〕

〔図（高知県長岡郡三里村吹井略地図）〕

〔図（菓子）〕

○土佐は五十丁一里、阿波は四十八丁一里、伊予讃岐は三十六丁一里なりと云ふ

夜、八百屋町ねぼけ本店にて晩飯。土陽新聞中平君来る。公園花月へ行く。伊予小野君より長文の書面来る。

七月八日

午前三時頃目覚む。雨。遠雷あり。

朝食前自働車を備ふて薊野、秦泉寺村にゆく。沢田君墓地を探してうろつく。薊野へは自働車入らず、岡田以蔵の探墓は断念して宿に帰る。

空やうやく晴れて天気なほる。

帰京のことに決して松山白洋君に電話

午後四時室戸丸に投ず。空全くはれて夏雲の土佐湾をはしる。室戸崎を過ぐる頃日やうやく暮れる土佐日記のことなど思ふ。

和田君や、船に酔ふ。ボーイ笠原某

七月九日

朝六時大坂着。九郎右衛門町菊の家につく。一浴して汗を流<sup>なが</sup>らす。新町橋際夜あけに行きて朝食、帰りて一睡。

村田式部君来る。河合、名越君等へ来坂を通じ置く。又松崎天民君来坂中と聞き電話。

午後三時頃松崎君来る。桜井芳太郎君来る。和田君と四人、菱富にゆきて午飯。村田の妻女、おゆう、名越君など来て賑かなり。七時頃宿に帰り菊の家女将その他に送られて急行列車に入る  
和田君はわかれて奈良の生家へ行く。

八月十六日。曇、小雨。

午前、脚本坂本竜馬の追加の場を筋立する。後、雑誌雄弁の脚本訂正。  
午後三時二十分、東京駅発車、同六時湯河原駅に着く。天野屋旅館に投ず。  
湯河原は徳田秋声君と共に二十年以前に來りしことあり。独歩も愛惜の地なり。夜、ビール二本にとむ。  
熟睡。

十七日

午前五時、目覚む。晴天を望む。午飯までに雄弁原稿七枚訂正。  
午後町内など散歩して帰る。留守宅より電話。伊賀保チクラの事、平凡社の事

夜八時頃寝につく

十八日

暁起。朝小雨。原稿を訂正し終りて十時なり。自動車<sup>自動車</sup>を備ふて熱海にゆく。  
魚見崎赤根公園を見物して樋口屋にて昼飯。午後二時帰宅。  
一睡すれば驟雨沛然として來り、満山の樹木を鳴らす。



この夜終夜。豪雨降りやまず。

十九日

昨夜不眠のため午前八時頃起出づ。

諸地出水の報あり、大雨つゞく。

昼所在なさに麦酒一本、昼寝。

午後雨やまず 鬱陶しさ限りなし。明日帰京と定む。

夜零一と将棋などさす

二十日

朝 雨や、やみ加減なり。

### 3 「入院日記」

入院中見舞品

○菓子大折

講談社

○蒸菓子

和田君

○果実

村田式部

○カステーラ

指方君

○丸まんスキ焼

小森君（板橋）

○あんこう鍋

大誠主人

○丸見屋重詰

鈴木氏亨君

○羊羹

小森（スガモ）

○西洋菓子

大谷社長

○カキモチ

国木田夫人

○カマボコ

松山秀美君

○柚みそうに豆

みどりさん（国木田）

○果実

江戸源

○うづら卵

吉野作造君

○ソーセージ、カナツベ等

佐藤充君

○メロン一籠

村松老人

○よせ鍋

大誠主人

○ボンカン一箱

藤井昇君

○鶏卵

小松川とみほ

○羊かん

千駄谷井上

○牛肉大名漬

藤井六輔君（大坂ヨリ）

○果実

山口剛君

○菓子

井上宗助君

○さしみ、よせ鍋

大誠 石川君

○カステーラ

大坂、たつ子

○果実

遊佐喜一君

○大坂カマボコ

黒川 一君

○伊予蒲鉾

清水省三君

（伊予八幡浜鈴間屋兄弟商会

カマボコ、干蒲鉾、味淋<sup>（ママ）</sup>ボシ）

○著書

和田英松先生

○果実

大東鬼城君

○切花

村田妻女

○山ゴボウ

清水省三君

○果実

徳田秋声氏

七面鳥玉子

松原伝吾君

菓子

松本賛吉君

菓子

横沢憲治君

玉子

豊島氏

玉子

綿谷 雪君

凍豆腐その他

小原 敏丸君

干魚

江戸源

菓子一箱

永見徳太郎君

西洋菓子

青山米迦君

羊かん

高橋菊三郎先生

カレイ

小堀誠 花柳君

二月九日 小雨。

日曜日にて閑静なり。いね来る。昨夜ねむり薬のみたるためか、や、頭重し。旧稿訂正三四枚。いね帰る。

午後藤井昇君来る。井上宗助君来る。シヤチホコ、昭和三四年度一読了。九時就寝。

十日 小雨。寒し。

体重五三キロ六百余。前回より一キロほど多し。この頃の注射のためか、患部の冷却すくなく夜はカバアを脱して眠るほどなり。頭痛も忘れたるやうなれど、耳鳴は時々あり。一浴。

正午頃零一來る。昨日の全国蹴球中学大会に優勝旗を得たるとか云ふ。村田式部君の弟子某、演舞場の切符をもち来る。

午後和田君来る。大誠主人来る。金談をもちかけられて閉口す。

稲田博士明日休日を繰上げて今日回診す。酒のことにてひやかさる。今日わが病歴臨床講義に出たる由なり。

午後九時就寝。十一時頃眠剤のむ。

「裏ページ（抹消線あり）」

用件覚

○梅□□□□君へ礼状

○和田英松博士へ□状

○藤井医先生へ礼にゆく事

○横沢君□□□□□□□□□□

○簡易保険

○□□□□□□

○江戸□学図録三十円

市議□□□□□□。ぐろりあそさえて。

○古図より見たる丸の内

非売麴町丸の内□ノ四

三菱合資会社地所部

○銀座 銀座資生堂非売品

○□□□□□□□□□□ブン□十冊二十□□

□□□□□□□□□□□□

○零一の□□□□□馳走

○和田君、日記浄書。

十一日 朝晴模様。後晴る。六時まで眠る。

午前和田君に来てもらつて、大誠の方をことほり頼む。次手に文房具等  
買入たのむ。

ふみ来る。

午後和田君と共に家に帰る。こたつに入りて一睡。零一の帰宅を待ち家  
族をつれて神楽坂川鉄にゆき酒を少し試む。帰途江戸源へ行けば休業、  
しのゝめに寄りて又一二本飲む。風つよく、寒し。

九時頃零一みほ子に送られ病院に帰り、グッスリ眠る。

「裏ページ」

見舞品(二)

いかだ鮠

メロン

いなりずし

玉子

西洋菓子

清水省三君

村松先生

国木田治子<sup>(ママ)</sup>さん

河田ひでよ

指方竜二君

菓物

菓子

ボケの盆栽<sup>(ママ)</sup>

乾柿

佐藤鶴吉君

三田村鳶魚氏

藤井六輔君

山口剛君

十二日 快晴

少し頭痛あり。入浴、髭そる。

午前無事、読書

午後遊佐喜一君来る。和田君来る。村田式部来る。ちよ来る。

四時、和田君、村田君、猪野さんと共に演舞場を見に行く。途中松竹へ  
廻はりて大谷氏と面談。三月の明治、帝劇女優脚本の事など打合せする。  
寒風のなかを徒歩して芝居に行き、中幕のみを見る。例により井上君の  
熱演、先づ上出来の方なり。八百蔵と云ふ役者初めて見たるが、思つた  
よりはよくしてゐたり。帰途村田藤井などつれて銀座大新にて晩飯。ビー  
ル三本。十時過帰る。しゃべらずに寝る。

十三日 快晴

今日より又順良なる患者となるつもりなり。酒はやはり後がわるい。尿、  
濁る。和田英松博士へ礼状を出す。

午後ちよ来る。和田君来る。綿谷君来る。五月のぶ子とか云ふ女優の事  
務員来る。叱りて帰らす。

夜、川柳雑誌「よのころ」を読む。創刊以来の綴込、得るところ殆んどなし。

夜、石橋のうなぎをとりて試る。

九時就寝。十一時頃眠剤をのむ

「裏ページ（抹消線あり）」

いね相談

○横沢寄留の件

○黒川見舞の事

○山口剛君訪問の事

○五月のぶ子に菓子。

○ボケの花

○絵はがき

○小使<sup>（みづ）</sup>三十円

○注射剤亜硝酸ソーダ

○小原敏丸君西鶴本のこと

$400 \div 15 \quad (270) + 30$

1キロ 267 匁

$267 \times 54 = 1068 + 13350 \text{ [「0」略記]} = 14418$

十四日 晴快。

二日やすみたる注射（亜硝酸ソーダ）今日より分量をふやす。入浴。  
いね来る。麦飯もち来る、うまし。中津川清水君より伊予蒲鉾送り来る。

午後藤井昇生来る。病院看護婦さん達に招待切符持来りしなり。

川柳雑誌乱読す。午後九時就寝。よく眠る。

十五日 快晴。

午前中の事例の如し。心臓部をレントゲン映写。

午後家にゆく。こたつに入りて一睡。和田君零一に送られて帰る途中三

丁目の藪<sup>（やぶ）</sup>そばにて蕎麦を食す。ビール二本。八時の体温終りて零一等帰宅す

九時就寝。この日中垣さん等芝居に行く。

外出中植木商会よりボケの盆栽とゞきゐる。

十六日 晴

日曜日にて閑寂を極む。朝ふみ、京都発喜多村緑郎君電報を持ち来る。読書して小児等の来るを待つ。来らず。電話にてことほり来る。

午後四時前ふと思立ちて、久しぶりに森川町徳田秋声君訪問。一時間ほど話して帰る。

午後九時就寝。

十七日 晴

朝、体重をはかる。五十四キロ七百あり。尤も上圍前なり。浴後ひげを<sup>（そ）</sup>する。村松翁より来書、お吉キネマの事なり。いねに書面書かせて黒川君に通ず。

回診の時血圧をはかる。例の如し。ちよ来る。

午後綿谷君西鶴の人名調査（一代女後半）と川柳雑誌「よのころ」持参。

黒川君来りて諸事相談す。この頃来心配せることわが杞憂なりし如し。

可悦可喜。

ほけのつばみふくらむ。

十八日。晴。

朝の行事常の如し。和田英松先生見舞はる。この日総回診あり。レント

ゲン写真を示され心臓も別条なしと云はる

いね、今日は幼稚園やすみなりとて女兒二人をつれて来る。サンドウキ

ツチなどとりて小児等と共に昼飯にする。

午後一睡。川柳「よのころ」を読む。下田村松氏、小原敏丸氏へ書面出す。

午後九時、ねむり薬のむ。十一時まで眠らず。

この日注射なし。夜、赤木博士見舞はる。酒のことなど話あり。

「裏ページ（抹消線あり）」

坂本竜馬伝

船長日記

百姓一揆

西郷隆盛

書状出シタキトコロ

大谷竹次郎氏

第一書房（版画研究、脚本集）

山崎有信氏礼状

十九日 晴 ほけのつばみ急にふくだむ。<sup>(ママ)</sup>午前行事常の如し今日より注

射中止。ふみ来る。

午後和田君来る。第一書房某君来る。松竹より巖谷三一君、富岡先生の

打合に来る。夜七時過ぎ零一來る。山口君訪問の模様など聞く

ねむり薬服用せず。

二十日 快晴。ボケの花ひらく。昨夜はよく眠りたり。やはり昼寝はや

める方よろし。

午前閑暇。午食強めし。

午後家に帰る。松本賛吉君来訪。総選挙の日なれど市中静穏。五時頃、

零一と共に病院にもどる。不在中大東鬼城君来りし由。又小原敏丸君よ

り返書あり、西鶴本翻刻について快諾あり。悦ぶべし。

零一と夕食を共にし、九時就寝。

二十一日

朝曇る。昨夜や、頭痛を覚ゆ。目下のところ諸症減退して平常とかはら  
ざれど、患部に発汗多きと軽微の耳鳴とありて去らず。二時間読書すれ  
ば頭痛を覚ゆ。

いね来る。零一早稲田入学のことなど相談す。

午後一時頃村田式部君妻女切花など持ち来る。二時過ぎ黒川君来る。本年二月迄の松竹及帝キネの計算をすまし、その総額をうけとる。その金を渡すべく直に帰宅。五時頃零一をつれて演舞場にゆく。帰途藤井君等をつれて銀座大新に立寄る。ビール二本。午前二時過ぎ目ざむ。脈搏百近く苦し。シミ、酒の毒を知る。反省々々。  
この日総選挙の結果一部発表。市中さゞめく。

〔裏ページ（抹消線あり）〕

和田君用事

○乃木將軍伝記（外人の見タルモノモ必用）

○日露戦争記

以上図書館

○乃木將軍（山路愛山 民友社）

○俵藤住所帝キネへ問フ事

○山崎有信氏礼状

○大東鬼城礼状

○井上君の書生にサツマ紅梅

脚本集

○江戸城総攻 六十枚

○江藤新平 二百枚

○血笑記 百五十枚

○颯風時代 百七十枚

二十二日 曇。ボケの花満開なり。新聞をまち選挙の結果など見る。内ヶ崎作三郎君落選。和田君、かねて托せる胸算用脚色の筋書を見せて来る。昨夜のことと思ふて恥入る。

ちよ来る。昼、かゆを食す。

午後静かに読書。松竹黒川君より乃木將軍の戯曲につき相談あり、自身電話に出る。

和田君図書館の帰途又立寄る。乃木伝二冊かり来る。

夜ねむり薬のむ。

〔裏ページ（抹消線あり）〕

○春秋文庫

滝本誠一 日本経済史

出井盛之 経済学説史

住谷悦治 社会主義経済思想史

滝本誠一 日本貨幣史

○綿谷君へ書面

横沢君の事

二十六日午後三時より

1387

52000 ÷ 375 1450 - 1125 3250 - 3000 = 250

二十三日 朝曇後晴。日曜日。一浴。いね、小児二人をつれて来る。のり巻ずし持参。小児等サンドウキツチをよろこぶ。和田君来る。緩談して清水君の来るを待つ。来らず。よく考ふればわが間違にて清水君の通知は二十四日なり 零一來る。和田君をも誘ふて本郷座横の石橋にて夕食す。七時帰る。

九時ねむり薬のむ

〔裏ページ（抹消線あり）〕

横沢君と打合

○

永代蔵三―四の語彙抜書（下書）

○

塩沢君ノート返戻の事

○

和田君

○古実<sup>(ママ)</sup>叢書の調査

○続群書類従の調査

二十四日 曇。

体重五十四キロなり。着衣を脱してはかり見るに一キロ九百あり。正味五十二キロほどなり。（正味十三貫八百七十匁）連日寝汗の気味あるにつき、昨夜被物を少し減じみる。甚だよろし。午前課業常の如し。ちよ

来る。横沢君より本朝文選通釈とゞく。ぼけの花さかり過ぎたり。

午後和田君来る。清水省三君中津川より来訪。徳川<sup>(ママ)</sup>秋声氏来訪。村田式部君来る。長談話や、疲労す。稲田先生見舞はる。

夜パン、スूप、ビフテキ。ミカン。各地に地震あり。今村博士関西大地震の憂あるを云ふと報知新聞に見ゆ。

二十五日 晴快。頃日春暖四月のごとし。午前つねの如し、但し総回診なり。ふみ来る。

午後松竹黒川君より電話、乃木將軍のこと。松原伝五君来訪、綿谷<sup>(ママ)</sup>君来る。後横沢君和田君来る。永代蔵のことなど打合す。和田君は清水君接待のため演舞場にゆく。

晩景、大平野虹君来る。七時頃帰る。

ねむり薬をのむ。

〔裏ページ（抹消線あり）〕

○貞<sup>(ママ)</sup>□□其裁判 一八〇・〇

（実□□□□）神田錦町□□堂

二十六日 晴。この頃夜間、寝つきに大腿部（右方）冷却して冷汗あり。

小雨、閑散。ふみ来る。

午後惰眠をむさぼる。

夜、病院の定食（洋式）といふものを取りてみる。

七時頃鈴木氏亨君、寺木君伊藤清君、ミナ川トウキイ社長の三人をつれ

来る。例の仮名屋小梅の話なり。快談のうちに解決して八時頃帰去る。  
熱三十七度にいたると云ふ。蓋し興奮のためにはあらず、この頃や、体  
温上昇の傾向あり。これで少しづつ、常人に復するためか。一笑。

二十七日 小雪ふる。昨夜ねむり薬のむ。入浴。

午前いね来る。ボタ餅なり。午後和田君来る。横沢君風邪の由。今日は  
終日ウトウトとしてたゞ睡し。本も読まず幾度かねむる。村松氏に打合  
せて明日明治座の舞台稽古見物を約束す。

夜和田君来る。志波生の書面を持参せるなり  
ねむり薬なくよく眠る

〔裏ページ（抹消線あり）〕

○<sup>(ミ)</sup> 穎原退蔵君胸算用の礼状

○伊豆の長八（左官）

二十八日 小雨

午前常のごとし。ふみ来る。

午後和田君来る、清水君来る、村松先生来る。猪野さんもつれて明治座  
富岡先生稽古を見にゆく。三時すぎ序幕にかゝる。

大谷社長に面会、四月の井上君について相談。場所は新歌舞伎なるべし。  
黒川君立会ふ。七時過ぎ浪花町浪花といふ家に立寄りて晩食。清黒両君  
は酒をのみたれど、ひとりサイダアにて飯を食ふ。十時病院へ帰る。和

田君村松翁を送りゆく

三月一日 晴

今日は大学記念日にて診察休日。入浴。

西鶴随筆など書く。ふみ来る。午後和田君来る。共に家へ帰る。黒川君  
病院を廻りて家の方へ来る。村松翁に唐人お吉映画謝礼の報告のためな  
り。

夜食を横沢君等と共にして午後七時病院へ帰る。零一、みほ子送り来る。  
寝台にのばればや、疲労の気味あり

午後九時就眠

〔裏ページ（抹消線あり）〕

尾崎君に□□□□□事

○何故に□□□□□反省せる時

○説□□話伊□君の話

○□□□□□□□□□

○□□□

○□□□□□□□□□いくら

○□□□□□□□□□働き得る

時□□□□□□□□

○□□□□□□□□□や如何

二日 朝ぐもり。



日曜日ゆゑ閑散なり。頭痛を覚ゆ。尾崎久弥君より来書、餓死云々と窮状を訴へて援助を求め来る。彼の人とは二三度面話せるだけにて深き交際もなき人（清水君の友人ゆゑ知りたるなり）なれども事情を聞けば実に気の毒なり。何んとかならぬものかと床上にていろ／＼に考ふ。兎に角返事を出して来訪を求む。

午前十時横沢君和田君来る。西鶴輪講三卷一、煎じやう常<sup>マ</sup>にかはる間業一章終る。

午後。疲労はなはだし、一睡。午後四時尾崎君来る。いろ／＼事実をきく。細君ヂフテリヤにて重症なる由、重々不幸なり。聞きたる処にては国学院大学の処置、折口君及び改造社広田君の態度甚だ冷酷のやうなれど、或は尾崎君の方にも反省すべきものあるにあらずや。話のまゝにはチヨツと受取れざるものあり。和田君又来る。小原敏丸君見舞はる。緩話二時間ほど。やゝ疲る。

頭痛ありて気分すぐれず。床上仰臥、課業のことなど考ふ。頃日来全身の倦怠違和を覚え、病症は一局部にあらざる心地するなり。頭蓋窩中の血行何んとなく不安を感じるなり。

この日、喜多村緑郎君代理として若井某君来る。

夜十時 眠剤をのむ

「裏ページ（抹消線あり）」

和田君

黒川君に来て貰ひ乃木伝の相談する事。

坂本龍馬原稿（岩崎氏）

藤村作氏永代蔵  
顚<sup>マ</sup>原本永代蔵

村松翁

○伊豆の長八の話（左官）

おいね用事

○山口剛君行涉いかゞ

○黒川君のこと

三日 小雨。気分おもく憂鬱なり。体重五三キロ六五〇に減ず。（排便前なり）今日は節句ゆゑ家に帰りて小児等をよろこばしたけれど、その気力なし。

藤井博士回診。感冒のためにあらずやとてその薬を投ぜらる。

午後和田君来る。乃木將軍のことなど打合せする。頭痛ありて気分重し。薬のためにや発汗多し。食欲減退、やつとパン三片を食す

夕刻よりやゝ気分よく、雑談などなす。十時半ねむり薬をのむ。

発汗あり。たゞ右半身に多くして左方はそれ程のことなきは不快なり。

大腿部冷却。

この日綿谷君来訪、心葉浄書を持参り玉子二十数箇恵まる

「裏ページ（抹消線あり）」

おいね用事

○倉ばらしのため茂木君訪問中□

○雑誌漫談 三月号

京橋木挽町一ノ十 漫談社

○週間アサヒ

江藤新平

カスル

カメなどの底にあるヌカなどをコソゲ取るカスルともカスリアゲルとも云ふ

四日 朝くもり。小雨頭痛。

今日総回診なれど稲田先生事故ありて坂口博士なり。

午後和田君来り、零一來る。零一は赤木博士の診断をうくるためなり。

佐藤鶴吉氏来訪。声音かすれて咽いたし。解熱剤などのむ

午後十時 ねむり薬のむ。

五日 小雨。頭痛、気分すぐれず。朝の茶まづし。

藤井先生回診。風邪ならんといふ。新聞を読んでも頭痛す。食欲なく卵

黄牛乳ともにやめる。

ちよ、イナリずし持来る。おいねも頭痛の気味ある由。

午後和田君来る。上圍後痔出血あり。一睡後、黒川君来訪。乃木將軍のことなど相談す。

横沢君来る。又一睡。

夜和田君を呼び雑話。気分や、まぎれる。食パン二片スープ半碗すゝる。

九時就寝 眠剤

〔裏ページ〕

水銀の度もり五分ほど上りたり朝のミルクを今日もやめたり

六日 小雨、雪を交ふるか。

午前気分よろし。マツサーヂ小野さん来り共同印刷の火事の話聞く。ふみ来る。

午後懶臥。藤井昇親子見舞はる。ソバ屋大村の皿二枚もらふ。震災前のもは一枚もなしと云ふ。和田君零一來る。零一某医院にて診察をうけしに肺炎に異状ありと云ふ。心得ぬ事なり。大学にては赤木博士の診察をうけレントゲン検査の結果別状なしと云ふ

食欲すゝまず。風ぐすりのむ。夜新聞を読むものうし。九時ねむり薬のみて眠る

七日 小雨、雲まじる。身体ふらつき気分すぐれず。午前中よりうと

く眠るちよ来る午後和田君来る。食欲なし、サンドウイッチにて昼をすます。後強飯をくふ。夜横沢君来る。

〔裏ページ（抹消線あり）〕

○永見君礼状

○三田村氏返事如何

○懷中電灯

○大平君謝礼

○週間アサヒ(ママ) (江藤新平)

○雜誌漫談 三月号

京橋木挽町一ノ十漫談社

八日 小雨。午前家より誰も来らず。食慾なくたゞねむし午後和田君来るも夢うつゝなり。病的にねむりつゞける。目覚むれば頭いたし

九日 小雨。後はれ模様。

気分や、よろし。東北大学諸教授の芭蕉俳諧研究など読む。饒舌に過ぎて研究足らず。ひる頃家母、零一、みほ子をつれ来る。ひげを剃る。三田村鳶魚氏来訪。村田式部君(ママ)来る。和田君を神田に走らせて幸田氏のひさご猿蓑抄をもとむ

大平野虹君来訪

高橋菊三郎先生来訪。

夕方ふと思ひ立ち本郷座にゆき塩原多助二まく見る。帰途ヤブ蕎麦にまはる

九時、ねむり葉のむ

十日 晴模様。体重五三キロ七百あり。この頃来の食慾不振にしては意外なり。

午前行事常の如し。露伴氏の俳諧抄読む。ふみ来る。

午後綿谷君来る。今日学校卒業の由。和田君来る。和田君猪野さんつれて明治座に行き富岡先生を見る。帰途上野山下揚出しにまはりて晩食。

九時病院に帰る。眠剤なく眠る

この日留守に大原とか云ふ人尋ね来りたるよし。カラスミ、鮎のウルカ様のもの看護室に托しあり

十一日。快晴。昨朝より朝の日光眩しきほど室内にさし入る。今日総回診なり。朝茶やゝうまし。

赤木先生総回診のあとに残りて右踝動脈を検しや、脈搏ふるゝ心地すと云はる。

午後閑散。来訪者もなし。夕刻和田君来る。分家の人が来りあるとて急ぎ帰る。零一来る。仙台行の事など打合せ晩飯を共にして八時頃帰る。午後三時頃中島四郎君来る。上州の事ユタカ君入学の事など聞く。

眠剤をのむ

十二日 快晴麗日。

午前行事常の如し。

正午近く和田君家族来る奈良粥を煮るため也

午後家に帰り書斎にて一睡す。松竹大谷社長の電話あり。横沢君と西鶴など講説す。

晩食後零一に送られて病院へ帰る。零一明後朝仙台へ受験のため帰省

十三日 微雨後豪雨あり

午前行事常の如し。いね、ふみをつれて来る。零一帰仙の事などを話す。午後村松先生令息来訪。お吉墓石柵（大谷氏寄附）の相談などあり。メロンを恵まる。午後四時松竹訪問大谷社長と面談五月の脚本の話などあり。帰途明治座に立寄り、それより急に思立ちて帝劇に行き二幕ほど義理見なり

村田式部和田君等と神楽坂江戸源へ廻りて晩飯。

十時病院にかへる。眠剤のむ。

十四日 快晴

入浴。その他は常の如し。ちよと共に国木田夫人来る。富岡先生上演につき相談あり来院を求めたるなり。

午後一睡せんとする時、治子<sup>(マ)</sup>さん十軒店の稲荷ずしを購来る戯れに食べたと云ふを聞いて、ワザ／＼買に行きたるなり

横沢君来る。頼原君<sup>(マ)</sup>のこゝろ葉外一冊を返して、西鶴の雑話をなしゆく。

夜治子<sup>(マ)</sup>さん来訪。とゞくべき筈の上演料まだ松竹よりとゞかず。

九時、就眠。ねむり薬のまず。

この日朝、零一仙台へ出発の由電話あり

十五日 晴日。後、時々小雨。

午前回診もなし。無聊なり。十時過黒川君来る。国木田の原稿料持参、夫人の現状を話して追加を求む。

午後家に帰る。治子<sup>(マ)</sup>さん来てゐる金を渡す。書斎にて一睡。後横沢君等と話す

晩めしを終り八時頃病院に帰る。眠剤。

この日老母成田参詣の由、零一もゐぬため家内さびし

十六日 快晴 日曜日にて閑散なり。家より誰も来ず、来訪者もなし。

夜八時頃よりウト、／＼して眠り、遂にそのまゝ、暁の四時頃に覚む

眠剤を用ゐず

十七日 快晴なり。体重五三キロ九百なり。

ちよ、彼岸のぼた餅持参。

午後和田君立寄る。眼科にゆき眼底検査をうけ眼鏡の度を合はす。結膜炎ありと云ふ。（中原博士診察）その帰途ふと思付いて家に帰る

横沢君等と話し晩めしを共にして八時病院に帰る。

十八日 晴。総回診なり。右足患部を追々露出する習慣をつくべしと云はる。

午後一浴一睡。和田君来る約束の乃木伝やれさうもなし家に電話をかけ夕方より小児二人及びいねを呼ぶ。国木田夫人及其孫同道して来る。上野清水辺を逍遙し、揚出しに入りて小児等をよろこばす。

八時帰院 眠剤なくて眠る

十九日 小雨。午前五時覚む。

午飯時佐藤充君来訪。ふと思出して帰宅す。上州より中島老母来りゐる。一睡。

夕方より和田君横沢君を誘つて徒歩、本郷三丁目の<sup>(マ)</sup>麩ソバに入り、又病院まで歩む。

九時就寝。眠りがたし。

十一時過眠剤のむ

二十日 薄曇後雨。睡眠不足頭おもし。ちよ来る。

午後綿谷君来る。和田君来る。共に明治座にゆく富岡先生大詰のみ見る  
帰途上野丸万にて晩食

九時就眠 <sup>(マ)</sup>ペロナール。

二十一日 快晴。休日閑暇。ふみ来る。

午後、和田君来る。首斬代千両に訂正を加ふ。蜂谷君に渡す

三時頃家に帰り一睡。いね帝劇にゆく。うた子来りゐる。七時頃奈良粥を食して病院へ帰る。途中玉屋へ立寄り眼鏡をあつらふ

九時就眠。眠剤なし

「裏ページ（抹消線あり）」

○こぶくめ

続猿蓑に角上の句、「小服<sup>コブクメ</sup>綿に光をやどせ玉つばき」、前書略とあり。  
岩本氏の七部集新釈に、「小服綿。蓮如上人は常に綿服を着したる由、

真宗の僧之に倣ふ。」とあれど如何。

○大伝馬町の屋根 同町一丁目木綿<sup>□□</sup>にて問屋は銅瓦にてふき、霧除けといふものを棟の上にあげたる旨神代余波に見ゆと云ふ。（川柳辞典）

二十二日 快晴。回診の時病名を問ふ。

正午黒川君来る。藤井六輔君ボケの花をもち来る。和田君来ル。一睡す。  
夕飯の時和田君再び立寄り佐藤君の永代蔵評釈とゞけくれる。

眠剤

二十三日快晴 日曜也。佐藤鶴吉君より永代蔵寄贈せらる。零一今朝仙台より帰りたる由、十一時頃家に帰る。小児等とあそぶ。

綿谷君病院より廻りて来る。一睡す。大坂よりたつ子来るとて家内ゴタくす。

七時過病院にもどる。ペロナール服用。

この日不在中佐藤鶴吉君来訪。

二十四日快晴。体重五十五キロ<sup>(マ)</sup>二千ほど。（裸体にて五十三キロ三百）

午後和田君来る。講談社の帰りと云ふ。終日読書

この日病名を明示さる。右側足背動脈閉塞性内膜炎、（直訳すれば右側足背動脈閉塞性動脈内膜炎）といふ。

夜眠剤のむ。たつ子新宿へ行きし由電話あり

〔以下抹消〕

二十五日 小雨 体重はかり直す五四、三〇〇なり。(昨日は湯茶を多く  
のみたる故今日はその分量を減じたるなり) 着衣一、九〇〇を減ずると  
せば正味五二、四〇〇ほどなるべし。

	3-3/2, 3-3/13
茂右衛門	1-6/6
茂木	3-3/3
や	
山口剛	3-目録, 3-目録 (二), 3-2/13, 3-2/19, 3-3/2
山崎有信	3-2/18, 3-2/21
山路愛山	3-2/21
山本有三	1-5/26
矢野国太郎	1-6/27
矢野鶴子	1-6/27
(ツル子、徳富蘇峰の六女)	
遊佐喜一	1-5/3, 1-6/5, 3-目録, 3-2/12
横沢憲治	3-目録, 3-2/10, 3-2/13, 3-2/22, 3-2/23, 3-2/24, 3-2/25, 3-2/27, 3-3/1, 3-3/2, 3-3/5, 3-3/7, 3-3/12, 3-3/14, 3-3/15, 3-3/17, 3-3/19
吉田東伍	1-5/3
吉田東洋	2-7/6
吉野作造	1-5/8, 1-6/24, 3-目録
ら	
蓮如	3-3/21
わ	
若井	3-3/2
和田勝一	1-5/6, 1-5/7, 1-5/14, 1-5/27, 2-7/3, 2-7/5, 2-7/8, 2-7/9, 3-目録, 3-2/10, 3-2/11, 3-2/12, 3-2/13, 3-2/15, 3-2/19, 3-2/21, 3-2/22, 3-2/23, 3-2/24, 3-2/25, 3-2/27, 3-2/28, 3-3/1, 3-3/2, 3-3/3, 3-3/4, 3-3/5, 3-3/6, 3-3/7, 3-3/8, 3-3/9, 3-3/10, 3-3/11, 3-3/12, 3-3/13, 3-3/17, 3-3/18, 3-3/19, 3-3/20, 3-3/21, 3-3/22, 3-3/24
和田英松	3-目録, 3-2/10, 3-2/13, 3-2/18
綿谷雪	3-目録, 3-2/13, 3-2/17, 3-2/22, 3-2/25, 3-3/3, 3-3/10, 3-3/20, 3-3/23
エンゲルス	1-6/29

	3-3/6, 3-3/10, 3-3/13, 3-3/21
プラトン社	1-5/3
平凡社	2-8/17
細井肇	1-6/26
本庄栄次郎	1-5/18
ま	
正岡子規	1-6/29
松尾芭蕉	3-3/9
松崎天民	2-7/9
松原伝吾	3-目録
松原伝五	3-2/25
松山白洋（秀美）	2-7/5, 2-7/7, 2-7/8, 3-目録
松本	1-5/21
松本賛吉	3-目録, 3-2/20
真山いね	3-2/9, 3-2/13, 3-2/14, 3-2/17, 3-2/18, 3-2/21, 3-2/23, 3-2/27, 3-3/2, 3-3/3, 3-3/5, 3-3/13, 3-3/18, 3-3/21
真山摂子（セツ子）	1-5/17
真山（森）とみを	1-5/29, 3-目録
真山（井上）ふちの	1-5/13, 3-目録
真山美保（ミホ子）	1-6/17, 3-2/11, 3-3/1, 3-3/9
真山零一	1-5/5, 1-5/12, 1-5/13, 1-5/15, 1-5/19, 1-5/21, 1-5/23, 1-5/27, 1-5/29, 1-6/12, 1-6/23, 1-6/25, 2-8/19, 3-2/10, 3-2/11, 3-2/15, 3-2/19, 3-2/20, 3-2/21, 3-2/23, 3-3/1, 3-3/4, 3-3/6, 3-3/9, 3-3/11, 3-3/12, 3-3/13, 3-3/14, 3-3/15, 3-3/23
マルクス	1-6/29
漫談社	3-3/3, 3-3/7
三木愛花	1-5/14
水谷不倒	1-5/12
水守亀之助	1-5/14
三田村鳶魚	1-5/16, 1-6/6, 1-6/29, 3-目録（二）, 3-3/7, 3-3/9
宮下丑太郎	1-6/1
民友社	3-2/21
村田（村田妻女）	2-7/9, 3-目録, 3-2/21
村田式部	1-5/30, 2-7/9, 3-目録, 3-2/10, 3-2/12, 3-2/24, 3-3/9, 3-3/13
村松春水	3-目録, 3-目録（二）, 3-2/17, 3-2/18, 3-2/27, 3-2/28, 3-3/1,



徳富愛子（徳富夫人）	1-6/23, 1-6/27, 1-6/28
徳富蘆花	1-6/23
土陽新聞社	2-7/5, 2-7/7
豊島	3-目録

## な

中垣	3-2/15
中島（高知新聞）	2-7/5
中島（上州）	3-3/19
中島四郎	3-3/11
中島ユタカ	3-3/11
中平	2-7/5, 2-7/7
中原	3-3/17
永見徳太郎	1-5/2, 1-5/29, 1-6/1, 3-目録, 3-3/7
中村吉蔵	1-6/27
中山豊三	1-5/3
名越	2-7/9
額田六福	1-5/7
乃木希典	3-2/21, 3-2/22, 3-2/25, 3-3/2, 3-3/3, 3-3/5, 3-3/18
野沢	1-5/1
野中兼山	2-7/6

## は

畑中蓼坡	1-5/30
蜂谷	3-3/21
花柳章太郎	3-目録
俵藤丈夫	1-5/1, 1-5/2, 2-7/3, 3-2/21
平泉澄	1-5/19
広田	3-3/2
広津	1-5/24
福井野紅	1-5/2
藤井	3-2/10, 3-3/3, 3-3/5
藤井昇	3-目録, 3-2/9, 3-2/14, 3-3/6
藤井六輔	1-5/4, 3-目録, 3-目録（二）, 3-2/12, 3-2/21, 3-3/22
藤村作	3-3/2
孚水画房	1-5/2, 1-5/29
ふみ	3-2/11, 3-2/16, 3-2/19, 3-2/25, 3-2/26, 3-2/28, 3-3/1,

島崎藤村	1-6/19
島中雄作	1-5/8
清水省三	1-5/3, 1-5/17, 1-5/30, 1-6/3, 1-6/15, 1-6/17, 1-6/19, 1-6/20, 3-目録, 3-目録 (二), 3-2/14, 3-2/23, 3-2/24, 3-2/25, 3-2/28, 3-3/2
春秋社	1-5/1
春秋書院	1-5/14
松竹 (事務所)	1-5/1, 1-5/7, 1-5/8, 1-5/12, 1-6/22, 3-2/12, 3-2/19, 3-2/21, 3-2/22, 3-2/25, 3-3/12, 3-3/13, 3-3/14
四郎	1-5/12, 1-5/14, 1-5/17
鈴木(越後塩沢)	1-5/19, 1-6/1
鈴木	1-5/10
鈴木氏亨	1-5/9, 1-5/14, 1-5/26, 1-5/30, 1-6/7, 3-目録, 3-2/26
住谷悦治	3-2/22
瀬戸佐太郎	1-5/4
銭屋五兵衛	1-6/21

## た

第一書房	3-2/18, 3-2/19
高野辰之	1-6/23
高野長英	1-5/3, 1-6/29
高橋菊三郎	3-目録, 3-3/9
滝本誠一	3-2/22
武田	2-7/3
武市瑞山	2-7/6, 2-7/7
たつ子	3-目録, 3-3/23, 3-3/24
近松門左衛門	1-5/6
ちよ	3-2/12, 3-2/13, 3-2/17, 3-2/22, 3-2/24, 3-3/5, 3-3/7, 3-3/14, 3-3/17, 3-3/20
辻野	2-7/3, 2-7/4
ツンベルグ	1-6/22
帝国キネマ	3-2/21
寺木	3-2/26
東条操	1-6/29
唐人お吉	3-2/17, 3-3/1, 3-3/13
桃中軒雲右衛門	1-5/1
徳田秋声	2-8/16, 3-目録, 3-2/16, 3-2/24

河田ひでよ	3-目録 (二)
木内興行部	1-5/2
菊池寛	1-5/31
喜多村緑郎	2-7/3, 3-2/16, 3-3/2
楠木正成	2-7/4
楠林書店	1-5/3, 1-5/12
国木田独歩	2-8/16, 3-3/15
国木田治子 (国木田夫人)	3-目録, 3-目録 (二), 3-3/14, 3-3/15, 3-3/18
国木田みどり	3-目録
黒川一	1-5/14, 1-5/15, 1-5/25, 1-6/22, 3-目録, 3-2/13, 3-2/17, 3-2/21, 3-2/22, 3-2/25, 3-2/28, 3-3/1, 3-3/2, 3-3/5, 3-3/15, 3-3/22
幸田露伴	3-3/9, 3-3/10
講談社	1-5/30, 3-目録, 3-3/24
高知新聞社	2-7/5
後藤肅堂	1-5/4, 1-6/28
小堀誠	3-目録
小森 (板橋)	3-目録
小森 (スガモ)	3-目録
さ	
西郷隆盛	3-2/18
西郷頼母	1-6/1
小織桂一郎	1-6/22
坂口	3-3/4
坂本恵喜	2-7/7
坂本節	2-7/7
坂本竜馬	2-7/5, 2-8/16, 3-2/18, 3-3/2
桜井芳太郎	1-6/21, 2-7/9
指方竜二	1-6/16, 1-6/19, 1-6/23, 3-目録, 3-目録 (二)
五月のぶ子	3-2/13
佐藤鶴吉	3-目録 (二), 3-3/4, 3-3/22, 3-3/23
佐藤充	1-5/2, 3-目録, 3-3/19
沢田	2-7/3, 2-7/8
塩沢	3-2/23
篠崎	1-6/22
志波	2-7/3, 3-2/27

井原西鶴	1-5/6, 1-5/12, 1-5/14, 1-5/15, 1-5/26, 1-5/27, 1-6/3, 1-6/6, 3-2/13, 3-2/17, 3-2/20, 3-3/1, 3-3/2, 3-3/12, 3-3/14
今村明恒	3-2/24
今村猛雄	1-5/4
岩崎	3-3/2
岩本梓石	3-3/21
巖谷三一	3-2/19
うた子	3-3/21
内ヶ崎作三郎	3-2/22
江藤新平	3-2/21, 3-3/3, 3-3/7
江馬修	1-5/12
額原退蔵	3-2/27, 3-3/2, 3-3/14
太田亮	1-5/12
大谷竹次郎（社長）	1-5/8, 1-5/12, 3-目録, 3-2/12, 3-2/18, 3-2/28, 3-3/12, 3-3/13
大原	3-3/10
大東鬼城	3-目録, 3-2/20, 3-2/21
大平野虹	3-2/25, 3-3/7, 3-3/9
岡田以蔵	2-7/8
翁久允	1-5/14, 1-6/29
尾崎久弥	3-3/1, 3-3/2
おさん	1-6/6
音羽	2-7/3
小野（伊予）	2-7/7
小野	3-3/6
小原敏丸	3-目録, 3-2/13, 3-2/18, 3-2/20, 3-3/2
おゆう	2-7/9
折口信夫	3-3/2
<b>か</b>	
改造社	1-6/29, 3-3/2
貝原益軒	1-6/29
賀川豊彦	1-6/23
笠原	2-7/8
勝海舟	1-5/31
勝田孫弥	1-5/19
河合武雄	1-5/1, 1-6/22, 1-6/25, 2-7/9

## 人名索引

### 凡例

- ・配列は姓名の五十音順とした。姓あるいは名のいずれか一方のみしか判明しない人物についても、その読みに従って配列した。
- ・姓名の読みは推定のものも含む。
- ・歴史上の人物については、広く知られている呼称を項目に立てた。
- ・利用の便を考慮し、作品名に含まれる人名、出版社名や書店名なども採録した。
- ・姓や名の記載を伴わない普通名詞は、特定の人物・組織を指すと推定されても、一部の例外を除き立項・採録しないことを原則とした。
- ・日記の記事において索引項目とは異なる呼称が使用されている場合や、同姓あるいは同名の人物を区別する必要がある場合などは、補足の情報を（ ）に入れて示した。
- ・1「昭和戊辰日記」、2「旅行日記」、3「入院日記」の小番号をふまえ、月日の前には「1-」「2-」「3-」を附した。
- ・3「入院日記」の「入院中見舞品」「見舞品（二）」の箇所に記載されている人名については、「日記月日」の項目においてその所在を「3-目録」「3-目録（二）」と記した。

人名	日記月日
あ	
青山米迦	3-目録
赤木	3-2/18, 3-3/4, 3-3/6, 3-3/11
朝倉無声	1-5/18
石井信造	1-5/4
石川	3-目録
板垣退助	2-7/6
市川猿之助	1-5/8, 1-5/12
市川八百蔵	3-2/12
出井盛之	3-2/22
伊藤清	3-2/26
伊藤欽二	1-6/1
伊藤茂雄	1-5/1, 1-5/3, 1-5/6, 1-5/8, 1-5/21, 1-5/27, 1-6/1, 1-6/4
伊藤専一	1-5/24
伊藤元吉	1-5/27
稲田竜吉	3-2/10, 3-2/24, 3-3/4
猪野	3-2/12, 3-2/28, 3-3/10
井上	3-2/21
井上宗助	3-目録, 3-2/9
井上正夫	3-2/12, 3-2/28

